

2012年3月16日 アナリスト・機関投資家向け説明会

主な質疑応答

Q. 第51期の業績予想が第50期と比較してほぼ横ばいである理由について

A. 2013年1月期(第51期)の予算の策定にあたり、いくつかの点に留意し、保守的に予算を組みました。まず、売上高に占める割合の高い電機業界の先行きが不透明であるという点。また、2012年4月2日に入社予定の約160名の新卒社員の配属の時期を下期以降かなり保守的にみているという点です。

以上の理由から販売費及び一般管理費が増加し、売上高を抑制するという点で2013年1月期の業績予想が売上高・利益ともに保守的な数字で組まれているという特徴です。

Q. 第51期の稼働率・技術者単価の予想について

A. 既存技術員の稼働率・既存の技術員の技術者単価につきましては、現在大きく落ち込む悪い要件は想定されていません。前年同レベル以上の予算を組んでおります。

Q. 第51期業績予想の当期純利益について

A. 第51期業績予想で経常利益200百万円、当期純利益202百万円と予想しています。法人税の発生はありますが、法人税等調整額を見込んでおり、相殺されたため、このような業績予想になっています。

Q. 記念配当について

A. 一般通例的に設立何周年、上場記念配というものは一般的にどの会社でも考慮する内容であると当社も理解しています。上期あるいは第3四半期終了時点の業績の推移を考慮しながら、しかるべきタイミングで判断を行いたいと考えています。

Q. 中期経営計画について

A. これから立案する中期経営計画は2013～2015年の3カ年を予定しています。従って2012年の秋から新中期経営計画の戦略と数字の策定を開始する予定です。来年度のこの時期には新中期経営計画の3カ年の売上高及び利益についての計画をご報告できるかと考えています。

以上